

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 JAPAN TRAMIA

辛喜代富之
四編
上一
四編

特別
13
3474
13

特

門號卷
13
3474
13

浮世風呂四編自序 酒善圖
秋月
屹々白雲飛。債券披て心
蹂め盒前の鬱を。なとくと
半身者あり。誰曾やと見被。債
立あを。催促ハ彼小齋。主客
も主官あり。稿本。宿
紺屋の明後日。作者の明晚。

昭和二七年
六月三日
媾求

方說と合點。春と夏と過。
種へ來しども看官小赤あかじ卷まき。未奴
はやく飛とる。初編の鶴叛鳥有つばめとありて。
制衣本最世よ小絕き絶。嗣つぐ二編三砌さんけい
の。各文中湯乃麵うどん向むけあせせ。と責せ繼つづらし明朝あさひ追およの任言にんごん。

為方案せんアリ。もうひ酒う一イチ杯ぱい機嫌きげ嫌か
筆筆を採と。序あい何なに。物ものと能こな。它ほか
どうどう。お祝のぶ赤あか。這なで好よ。と与よ。小
主ぬし管かん忽すこち莞爾にこ。唯いと
しく考かうぬ。

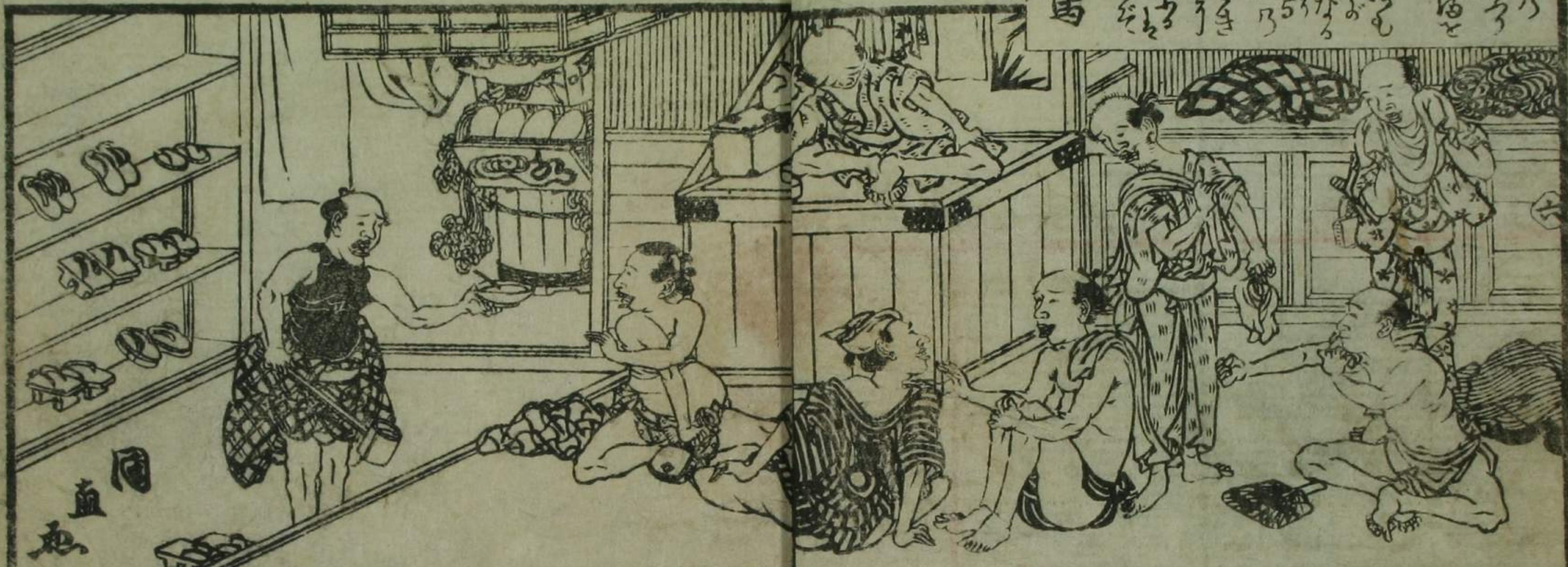
式亭三馬戯題





三馬

湯番乃
丹波のう
えふせ



江戸御町使仕

浪真也

あらは妙
法連草姥
よふ湯よ
風呂も
たてぶ
たてぶ
三馬



○當酉年新版繪入讀本

式亭三馬戲作

酒例乃一盃 綺言初編 一冊

諱話浮世風呂四編 二冊

諱話浮世風呂四編 二冊

諱物語四十八癖 二編 一冊

田舎芝居忠臣藏 初編 二冊

素人狂言紋刀形 初編 二冊

古今百馬鹿 初編 一冊

假名手本 藏意抄 一冊

諱話浮世風呂第四編卷之上

江戸戯作者式亭三馬戯編

男湯再編

秋乃時候

秋事ぬと目めとさすやうふとえゆども。燈籠やくと鳴る
聲よ。おどろきれる。盒前の怔忡も。親の心子あくびとて
お間魔まほの日とたひ。娘子共の一群。あれも浮世絵
風呂屋の門と立つて、見ゆ。十代より六七歳の子を
よう十四五歳の娘へそりつけ。二うぶじと云う。ものめぐらしといふを
そりの小娘。十五六より十七八まで。女六人をうぶひ。お乳母どのと軍隊を

人間萬事盡詮計 効編 一冊

人心魂機闇 初編 二冊

柳髪浮世床 初編 二冊

新話浮世床 初編 二冊

好古愚癡錄 大本三冊

大千世界樂屋探 大本五冊

三芝居客者評判記 残編三冊

聖方の教訓鬼打豆 大本五冊

其他遊く著述二冊

あらゆる物と死んで。儀仗整へり。まん。江戸流の盒踊。他国のみ見物にまつた。
江戸を代国のやんをもつて。對ひ。腰鼓とりうき。ありて。どく。よた。そり。
只。がんさと。うなりをきく。▲「おもやづ」、「おもやづ」と。その
三四どんみなかみ。びくゆくの。子り。へせの。あざりふき。じて。びくとせま。

「ユウくも雪さん。おまぐれ脊が高ひく先駆ぢやア。」
（さすがに）
（さすがに）

中央ふも経ひテヤ
も相さんきごエ
もまぐれとぢや
なつゆ

物ごよのう。流石のむとどんも間違の「何用口をるりん」。あの
小娘たまんどなふとさづへ「やあんどなよなうすくみとくも。
小娘あきとく氣へひうねる何ど。ふ守ぢや。従へ。もひく日三でも
八百石のお嬢さんざよ。へん。ちろちろ。漫垂もとまぬとい。目窓の元頂も「元頂も。ましが強い「ましが
漫垂もとまぬとい。目窓の元頂も「元頂も。ましが強い「ましが

つゑもすまぬ「ましが強い「コトサくおとどん。
ア黙止みよ。ト中もとまうた娘ニシテ「でこ
お聴其程よ情せも張てさひ。おとどんもゆのちよふ事」
ア黙止みよ。ト中もとまうた娘ニシテ「でこ

「ひき」さん御くま不肖一よ。トお方ちづく。中へ十三ぞうの小じ。あ
邪魔とならぬ。まねぐしをそら。やり卷て。片まほのせうひじでひそびてんづ
さん。古ゆきの金経育はとえにて。肩燈上をもや。まつ引。前燈上の燈目。お飯粒。二粒
模様。丁飯。かうりてあびはのうるから。脊中。腰。中。腰。おもかく。首をがく。うり
え。おづきをねうのえま。おしれ。うー。もの。どうけ。従ともや。く。ひどきの
踊。一。ハイく。まつ平く。ぬ免み。菜箸。火吹牛。歎き。じよひだ
ひ。先別。うー。美くま。たぶ。もすへさん。のひ。利も。ひ。最。又。もまえ
さん。のひ。利も。ひ。を。テ。ひ。を。で。ご。ぎ。の。す。く。今。日。ひ。も。仲。と。お。あ。り
す。ま。の。よ。結構。み。お。天。気。ひ。あ。が。ひ。ま。と。ひ。う。ま。も。お。櫛。む

在をももあらうて。後機轡ようも出ねどもちとト地ち
まゆるをや。矢そへんをとらへ。茶へん。ごやんがこく
トよ拍手をあわてきどりあひおこれとて。あとともの
一風かぜよたゞひとう和睦めぐらして。並なぶ。あとともの
よくお茲しづびよ。踊子おどりこをかくべをかくべ。アーサ松
さくらぢや。あくびあくびのせも纏まつりぐまく「サクも纏まつり

「長いぞ。西國にしきをあそび。馬ばぐやう。お駕籠こしやこでゆる。
お馬おばも否いよ。お駕籠こしやこもひよ。十じゅう六ろく七しち小こままひくひくれれままをラ
ひくひくれ。アーサ。りんと大きな声こゑをもあふ。タマタマ先駕籠さきこしやこへお声こゑが

低いさきタマタマ大おほい。一日いちおうちうちをあた。サーキイだらだらああう。おあああがひくひく
ややウタうた。ちとちと高くたかたアのウニイうにいませう。たアのウニうにま
ちよさきタマタマアーラアーラ。ちとちとあくあくたアのウニうにませう。たアのウニうに
までちよあく向むかう。男おとこの子こが孟おくくて。あくあくよ。タマタマ
孟おくくと引ひ食くて役わす。捕つかひひみみ。役わだれだれのややて。あくあく
アーサアーサあらひゆゆななも。お手てで。おひ方かたが。逃とれれ。悪あくなる
ト大おほい。ひつれひつれ。あとあと寝ね。せー。ゆー。めー。どどし。深ふか世よ風ふう呂ろ男おとこの
格かくすふよよて。涼すずく居ゐる男おとこは。がんがんを。どうどうのあ。ま。あ。と。く。と。く。と。く。と。く。
脚あしお次たんじ。裏うら頭かしら聽きる。今いまの。孟おくく。番ばん頭かしら聽き。う。獨ひとり丸まるぢぢやア

絶え「ひさすひりとざ」「さすうき。女の子とひきの駕、トい者
あそびまとふ。ワシテ江戸ちやア踊ません。私どもの国。
踊も大歎き。甘きも。じどきも。ざんぞくり。ゆざわと。甘
江戸もひじり踊。ひきうみが。舞祭会の地へ流行。速ひよひよ。
そそて後へ踊くねね。みくらひのき。「あせまく。轟く云
まよ子「あれが唱。すよよと盒」と。すまひのき。「ぐんさう
あそび。ふ益くわく。翠をとり。あしたく嫁のあられ事。とひ
男がある。「うるわど「もくじくかゆのすが。轟く娘の始。からう。

まとうふ和わきものをめぐらうへそれもつゝれど今いま
益唄えんぎといひの惡態やうたいを衝つくのご「めぐらへ情きみあるゆき。所謂いわゆる

田婢たひ野娘やぢめの乳母うぶ子守こりう等などのたゞひが。出放顯でほうけんの文局ぶんきょくに修ほる
仍てものまゝ鄙ひくうぢやテ一休いつきゅうさんさんの子こあひ。女めさきさきこ
まゆまゆを教おひりのござざいざざいすととあじ。成人せいじんともあゆあゆくを
ちゆちゆふなうなうが。自じ我がととまじくならならか。邪魔よもまななら
種たねス甘。生うぐそんなりののあゆあゆが。種たねづくづく幼ちう少せう時とき。小こ鷺さくらが
大切大切な。其その征接せいせつゆ。堺町さかいまちあ園あぞの育いく。小鬼ちうせ。鳴物うなりものの音おと

おじえど。まちきんまうりの者へ葬られ。強飯を分団めく。貰ふて
食ふ。足水と自乾と馴るのぢや。そこで孟子のお褒美ます。
三毛び轉居をさあることある。成程口をみてこそ「イエサム」も
りやせん。其の証接もス。本町ふ吐虚誕もゆゑど深川よ瀬川も
ゆり。是如何。コサく足下のゆうふ。さうい意地でよき歩き
てよ。どうもかうのうな「足下」でも反歎でもいつか。どうかうねがら
お人の手を取れ。今。今の女めふの中ゆも。おひすくふ
がる。おもむねが。絹布ふくよも。一す歩きも走乗物で
まんくふくよもあらう。されど云くも益唄の悪態がほひ
あう。りんでもひ。ありやア圓くの性質。盛切の小見どと。
きの物。おもむねもねが。おじえ。すもあらう。また。の者
たとて。葬れの強飯。食ふ。もあらう。又食ふと
涙きくも強へ。ハテナ。さう。どうの。そこかへ聴ふ。ゆる
を。宴一だん聴ふ。もじ。おらへの。アキラ。モモ。ト
酒を飲ふ。ト戸の鱗を食ふ。涙ふとおりふの。チト
まつこ代物。おらへの。アキラ。モモ。ト。サビキ

往後ハテ潮者も飯を食ふ下戸と唐ササギのあひ間を
食ふ上戸をたひト一回の押物ぞ真田の腰革の男がちもて
羽織を身に着け晒の手中と女中虎が夕べて野遊ふ出は
厚がろて綿頭巾の血ま盛の壯夫が襟毛をすり天窓を
包みこむ。さうとおりハ姫やをあうとう形をさせ。
押返され程へますをとる始もゆハサリくそと云ひテ。そとす
は方のトント心も落なふぢやハテサそれがすらが小まい。昔
かく今やで匂ひといすの。瞬をとる間に渡れうと。まこと

いふふなりとす「それへ古今変化の利也。今へ昔かぬり
昔へ今へも。こちうえんらのよどぎう。さうへきふ
ぢや。其中もハサ打率く並くがい。世説ももなむ極
とど。世の中の放蕩家。親や親類の異見をふ間へまうわへ
る。己の氣うと止む時ゆと大磐石とかくせ。其利屋を
をとド。万ゆふ通じ。ハテ捷い壁立谕。お佇のゆう。一旦へかくす
れ。善悪と二事。児もつはりの。こうふ。是れ悪いとおりふ
る。なぐ續く往へる。あくとが色と酒と家園を傾け

角家をもと亡とすちうひが。和漢古今ともに史記といふにて
ゆまくあらんどうぢや、「そりや。うながまで不るのほ、ぬ考
え。遠ちやあらう種。よくきく馬鹿者だく。是れ湯の水。
ヨット馬鹿者とりだ。アレく。向側を通る日傘をよませてドク。
ハア。夫婦とおがき者。相合傘であらも候く村とく通じ
て何さらう子。男を尤中位の好男だ。頸へ青筋を涙く。
チト不意オだふりの扱へ。ミテ女へいづれぬずれ者の黒とふとえ。が。
高慢な面にて相合傘へ。身をき種ふ。ようかく鍔面皮
ちうりだ。人をくともありわね奉勧。一か。自慢の膏肓か入
き奴ぢや。女房膏肓の次オヒソツドロク。あれもひの女ふ
入れよ。漸く因へいの宣も簾首の環が鳴る。とりふ世界さ。
あじ此道行へあまりま恥し。子額の汗を下すよ拭と。色男
の面が藍隈ふ。あじ。土地の風俗といふのがめうて。あれ
京都などてえると見え苦く。さて京の町の女と相合傘へ
あらう。娼婦お妓などを引連れて。手がひき合てあらう。一
目づき。江戸でえふ。まことほぐ。小毒ほしく大恩。

上方へ人手の和い正る。トニト穏便。江戸でぞがう。上方で。
りうへなど、いふゆづれられど、まゝも馴み、かうへ居れ
せ。更にかうね、已ぐの好ぐら、他城をひそへゆご。
先誰でも出しごるテ、トリふて風ふうとあらへる男。たゞ、
ゆ。妙菜の衣ちを両面ふはる。又古とび。國をとりて被五段の茶名をよみ。」
「ヤドムジヒ公。大もす。身この
いや甘次え。あぢくお目おがくまぐ。従の。コウコソ従へ如在
従へゆとよき。薬のじれを圓扇へ張り。湯盆へ配る。五
五とも透従へよ。番云う。居眠り。タヒリのよ番云の

居従ひうとまさり。湯汲の居眠るのがむと。今時
りこれと冬。まくとく居みをもかうると。小まよ柄杓で。
たゞとくと汲み。あんまり心ひきがゆへ。そめくせ夏と
さうやうとつけて隨意小汲せり。そのをき。多ひ湯が湧く。
夏を捨て、まとも湧上うき。よび牛の湯だ。ままと汲
まると。湯の湧くろがゆく。最至底。されど。代をまう
名ひませぬ。よび牛とく。今に行小醫書あるやうの
細見ぢやあらべ。ア。済湯をくむ。升形の下とせぬ。

りあつま。湯汲の看者のことばより番と云ふ。大概行水の
湯やでも。わざう番と焚火を毎日代り今ふ「さうせよ」と
いふの「そつやア遠くの素戸と消炭を俵かしてうる。

あらまんのわはぢふなれ。糠の油をみて浸淫瘡のまづふ
まろ。挾斬と瓜が喉痺の薬ふなるとひまゆりてひなづる
まく。あきらひ。シタガもぐる虚誕の圓鏡ごくう的ようゆへコウ。
あくべてくふ。大抵文足もうつら正直ぞ「いや」飛ハ
まくの詰めりも汝炮ど「あじかう」とりふとをいふと
まく。まくそのうまくも「まく」甘いア味をそれだ教とゆど。汝炮
人を。を名を汝炮作と云ふ。イア味をそれだ教とゆど。汝炮
先生ひまく。まくど化のまく汝炮どみゆのと「汝炮」と
まく。汝炮も。作ども大筒と「あきやアされ」作
まく。まくど「あじかう」とて西へ浮騰が
まく。まくど「あじかう」作
まく。まくど「あじかう」作
まく。まくど「あじかう」作
まく。まくど「あじかう」作
まく。まくど「あじかう」作
まく。まくど「あじかう」作

けんまく。まくまく。其筋のちや。ほくもん柄と「あじかう」
まく。お渡炮の内どス「コウ」という利屈と「あ」の湯面をく
作
ナ。まく。まく。湯屋の喧嘩圓鏡ス。猿田七兵の彦。

「あれと触岩よ」其の音ア。猿田の音が先もの
触岩がそしこと事て居る。うちもかがい作「もつとも」と

勇作。触岩が八す角をうそく。賊やといひうづき。足が脛
骨を。やきアと折くと足が二本作「き」。えきを。其足で

溝溝作「あ」在四十貫目やどの磯を打たる。岩が絶天へかうん
と中作「あ」で頭が真二ツ「コウノ太筒」。社加減ふ瀧作「うそをほきま。

虫の毒作「うせ」触岩作「さき」頭に割作「さき」やア一箇
八三作「さ」。あれやと割のをちうアあらも中人作「ちうじん」で中人の目作「

割」とえなるうちの種が。おりふが極る上人の目作「まわり
葉を白」作「まわ」四十貫目と。磯が何作「どこ」あらうぞ「ハテ

まう達作「まう」極めども。威勢が強作「いせ」。そやまもして立つが
まう。岩の肚作「やらう」即作「ひき」とて。れき合作「あらへ」と。祖作「そが

鼻を岩作「いは」食搔作「とび」。何猿田彦作「ひるが」。鼻を触岩作「ひるが」食搔作「

かからナ作「えまへ」よくけ徒作「ひき」。遍作「ひき」が。おれが海作「まき」と。あれ外作「ゲゲ丈作「さう」。作ふ。ゆきだせく。主が漣作「うそ」を。あれ作「うそ」

うけらまも。万遠作「まき」。甚跡作「まき」を。聴作「き」。ハテ斯作「さう」云作「

ねどりど。ひとと済の物を食ふる者どうも、両方で了る言
とりやア有や無やに行うといふりてごス。そととおれう莫モ
支方うト誤証文を生まセテス。ト。和睦の際まつりと上アホ
盃の添まかせ。証文あわづ莫まリ。目下あたて引裂ひきはぎて縫ぬいうとさよ
利尾りお。こゝろりきん居すむうぢア種たねう双方ふたがたともうぐん
ど縫ぬいる種たねう。もとより極きゆくうといふ不^ト可な能めい。證文あわづの一段いつよ。も
なと長なが代だいえんぶ頼たのうといふ不^ト可な能めい。珍きず。をもね。道みち裏うら。万まん
に持行もちゆき。もと縫ぬいる。あれう助たす。そ。傍そばべりよあせあせ。アア。

